KU Wandervogel

名峰白山
南竜ヶ馬場

2016 年
7/26～7/28

俺たちゃ　徘徊老人ではない
山を楽しむハイカーだ

参加者全員　70歳を越えた

俺たち全員はとうとう 70 歳を越えた。

半世紀前は、山々を若々しく歩きまわる KUWV の部員だった。今や、平坦な舗装道路のウォーキング中にも転んで医者通いをするものもいる。参加者の集合写真（上）を見ても、若さはどこにも感じられない高齢者パーティーだ。

そんな彼らが、なぜ白山・南竜に毎年集まるのかな。白山は、そんなに魅力的な山なのかな。

白山の魅力というよりは、半世紀前に一緒に遊んで学んだアイツらに会いたいからだ。今年も会えた。うれしい。

参加者　12 名

（敬称略　順不同）

① 合津　尚　6 期
② 山村嘉一　8 期
③ 伊豫欣二　8 期
④ 穴田昭一　8 期
⑤ 篠島益夫　8 期
⑥ 黒崎史平　8 期
⑦ 高水間淑子　8 期
⑧ 伊藤俊成　9 期
（今回 PW の幹事長）
⑨ 白井　勇　9 期
⑩ 山中重夫　9 期
⑪ 保田　敦　9 期
⑫ 鍋島　武　9 期

行程概略

7 月 26 日（火）雨

別当出合→南竜ヶ馬場
（砂防新道経由）
個々に南竜に向かう

7 月 27 日（水）曇

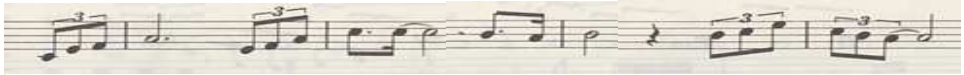
（自由行動）
① 別山往復　2 名
② 植物観察　2 名
③ 室堂往復　8 名

7 月 28 日（木）晴

南竜ヶ馬場→別当出合
（砂防新道経由）
全員一緒に下山

第１日目

白山は今日も雨だった



あーー あ　　はくさ　んはー　きょう　も　　あめー　だったー

北陸の梅雨は明けた　夏本番だ

『梅雨明けも宣言された。今年の南竜 PW の天気は良いぞ』
『展望コースで、北アルプスから上がるご来光も楽しめるぞ』
『今年の夏山第一弾はついているぞ』

ニコニコ顔で、ワクワクする心持を抑えながら、ザックに装備・食料を詰める。

白山は強い雨で KUWV・OB を出迎えた

だが、現実は、例年の南竜 PW のように雨。しかも土砂降りだ。砂防新道からみる不動滝にはものすごい量の濁流だ。怖い感じだ。

『梅雨明け 10 日間は好天』の理論は嘘なのか。

その雨の中、参加者それぞれが、登山口の別当出合から砂防新道経由で、南竜ヶ馬場に向かった。

グループ A：伊藤俊成　保田敦

金沢育ちのイケメン爺さん。故郷金沢に前泊して、保田車で別当出合へ。ゆっくり確実に歩こうということで、山歩きの原則『早立ち・早着き』を実践した。

単独行１：伊豫欣二

体力、気力は抜群。KUWV・OB の田中陽希だ。コースタイム並みに歩いて南竜に到着。

そこからがすごい。（囲み記事参照）

単独行２：白井勇

三重の自宅から別当出合まで、マイカーでの長距離運転だ。まだまだ老けこむことなく、南竜 PW に参加。堅実な足取りで、甚之助、南竜ヶ馬場へと進む。意外に歩けるぞ…と自信を持ったのではないでしょうか。

グループ B：合津尚　　山村嘉一　山中重夫
　　穴田昭一　黒崎史平　鍋島武

早朝に金沢についた合津さん、山中さん両名を、山村さんが車でピックアップして、別当出合へ。一方、穴田さんと穴田家に前泊した黒崎さん、鍋島の 3 名が、穴田さんのドライブで別当出合へ。山村車、穴田車がほぼ同時刻に別当出合に到着。

合流した 6 名が、砂防新道を歩く。高齢者の 6 名だが意外に元気だ。6 名の隊列は乱れることもなく、南竜ケビンへ。

この南竜 PW の特徴

南竜のケビンに宿泊することだけが決め事。それ以外の行動は自由。自分の気持ちと責任で行動。

① 初日の集合場所は南竜。登山口の別当出合での集合はなし。勝手に南竜まで行く。
② 2 日目のワンデリングもそれぞれの企画で OK。
③ 下山も各自勝手に。（別れがたくなるので、下山は一緒の場合が一般的かな）

オタカラコウ

体力・気力だけではなく　優しさも

集合地の南竜に到着後、荷物を置いて甚之助小屋まで戻った。後から来る B グループ 6 名を出迎えるためだ。そして 6 名が甚之助小屋に到着すると、6 名の中で最も重いと思われる合津さんのザックを背負って、目的地の南竜に先行出発。

体力や気力だけではこんなことはできぬ。どんなに疲れても、人に尽くす優しさを持ち合わせている。

その男の名は、伊豫欣二。

グループ C：高水間淑子　篠島益夫

篠島さんのマイカーで、関西から別当出合へ。山に同行することも多い二人なので、雨であれ遅い出発であれ、恐れるものはない。着実な足取りで南竜に向かう。

その二人の到着を心待ちにして南竜山荘で待機する YA さん。二人は、南竜山荘に寄らず、南竜ケビンに直行。YA さんの心使いも大きな空振りに、無念。

しっかりした雨対策で、別当出合を出発

雨にも負けず　南竜に　12名全員　無事集合

強烈な雨だが、予定の 12 名全員が南竜ケビンに集合できた。馴染みのあるコースでもあるが、みんなに会いたいという意欲が後押しした結果でしょう。

集合後、積もる話に盛り上がるのは、例年の通りだ。（話題の内容については別項参照）

1 年ぶりの再会に乾杯！
宿泊は南竜ケビンだが、食事は近接の南竜山荘だ。

大臣を育てた教育者

授業中に、先生の話も聞かずに眠ってしまう生徒たち。その生徒たちを相手に、教師魂をぶっつけ、情熱的な教育を実践。

その生徒たちは期待に応えて、社会人になっても大活躍。その一人は大臣にまで上り詰めた。だがこの生徒もどこで間違ったのか、パンツ大臣の汚名も。

その情熱的女性教師の名は、高水間淑子。

第 2 日目　天気もやや回復傾向　それぞれワンデリングだ

ご来光組

奇跡の天候回復を祈って、午前 3 時過ぎに起床。南竜ヶ馬場は濃いガスの中。このまま展望コースのアルプス展望台に向かっても、『ご来光』の見込みは全くなし。再び寝ることに。（決断の速さは結構だが、心中で、悪天を歓迎していたのかも）

別山組

篠島さんと山中さん。

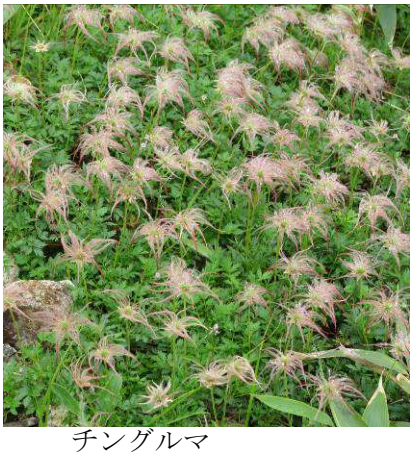
このお二人は、日本百名山完全登頂者であり、今なお国内・海外の山を積極的に歩き回っている。また一緒にパーティーを組むことも多々。

この二人は、この程度の天候で、予定変更をする気は一切なさそう。篠島さんが、朝早く山中さんに「起きるぞ」と起床ラッ

パの声をかける。（山中評によれば、篠島さんは、一度決めたら、そう簡単に変更しない…意志の強いタイプ）

午前 7 時前には、別山に向けて、出発。別山頂上までワンデリングをして、南竜ケビンに戻ったのは、午後 4 時半ごろ。山中さんは汗びっしょりで、二人とも満足気の様子。

クモマニガナ


チングルマ

直近でもヨーロッパアルプスを堪能

この南竜 PW の連絡を互いに取り交わすメールの中に、次の内容のメールがあった。

『わたしも先日イタリア、オーストリア、ドイツのアルプス展望の旅から戻ったばかり』

南竜で、この方とその旅の話をする時間がなかったのが残念。もしかしたら、ドロミテ、コルティナ、グロスグロックナー、ツグスピッツ…等の旅かな。

今なお、海外にも旅する積極派の山男の名は、篠島益夫。

室堂組

別山組が出発した後も、南竜の天気は相変わらずの状態。全体のムードは、昨年同様、沈殿ムード。『しょうがないな。酒でも飲んでだべろうか』。

午前 8 時半前後か、なんとなく空が明るくなってきた。「せめて室堂まで行こうぜ」の声に反応した男は、合津さん、山村さん、伊豫さん、穴田さん、伊藤さん、白井さん、保田さん、鍋島の 8 名。決めたら行動は速い。9 時には南竜を出発、エコーライン経由で室堂を目指す。エコーラインの入り口でオコジョに激励され、弥陀ヶ原を気持ちよく歩き、五葉坂でアゴを出し、何とか室堂に到着。

「室堂まで来たのだから、俺は御前峰まで行ってくるよ」という男は一人も現れず。団体行動の規律を遵守する良識派か、これが限界の高齢登山者ばかりなのか。

帰りは、アルプス展望経由。展望台からの急斜面周辺のお花畑は印象的だ。素晴らしい。

オコジョに激励される

南竜道からエコーラインに分岐する場所での休憩中、我らの足元付近を、オコジョがチョコチョコ走り回る。我らに何の警戒心も持たない。

「ここから急登が始まるよ。高齢だろうけれど、頑張れ」と言っているようだ。かわいいね。

室堂でくつろぐシルバーエイジ

少々お疲れかな。

赤シャツの男性は、現地で会った穴田さんの知人。後方の白山比咩神社の祈祷殿の建築に携わる宮大工さん。

生物探求組

黒崎さんと高水間さん。

二人の学生時代の専攻は生物学。今なお、生物への探求心のレベルは高い。今日も、南竜、油坂から天池へと、生物研究のワンデリングだ。

南竜付近の半世紀前（学生時代）の植生と今との違い、外来植物の現況…等について、研究しているのかな。

この二人は、翌朝も南竜の植物を採って、研究をしている様子だった。（学生時代に何を勉強したかも記憶にない小生にとっては、尊敬しちゃうな）

45年振り 知人女性を訪問

45 年も前に、南竜で仕事の関連でお会いした女性がいる。その女性は、今や、白峰の栃餅しんさ本舗の女主人。

この PW の行き帰りの 2 度、この女性を 45 年ぶりに訪問。お互いにそれぞれの顔はわかったとのこと。積もる話もあろうが、山の行き帰りのわずかの時間での逢瀬だ。

今回の山行自体も楽しかっただろうが、この再会の方がより印象的な場面だろうな。

そんな劇的再会を演じた男の名は、

黒崎史平。

翌朝も、南竜ケビン前で、二人の研究は続く

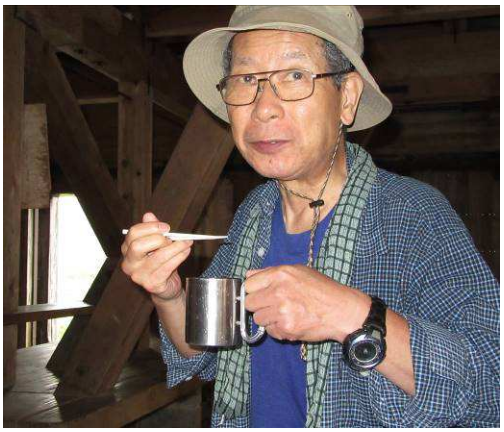
ワンデリングで疲れた後は　そうめんでお楽しみだ

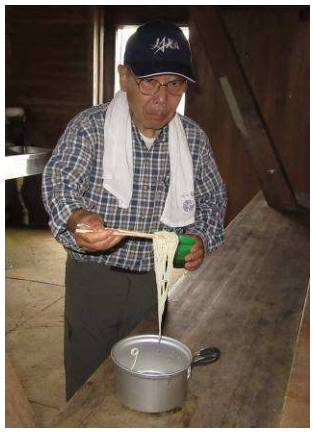
全員、ワンデリングから帰った後は、合津さんに持ってきていただいた『そうめん』を料理。お腹を喜ばせた。

そこで、珍しい光景が見られた。

いつも働きの悪い９期の面々が働いている。そして８期の皆さんが食べることに専念してくれた。

9 期もやればできる。いつもやる気がなく、さぼっているのだな。





南竜ケビン　酒は進む　話は乱れ飛ぶ

2.7L のウイスキー、1.8L の大吟醸、地元の銘酒やワイン……。

南竜酒場に持ち込まれた酒は品種も多く、量も多い。

初日、二日目とも、南竜ケビンは居酒屋状態。

高齢者登山で体も少々お疲れ気味。その体に、お酒がぐいぐい染み渡る。口も軽くなり、話も盛り上がり、あちこちで脱線。

話題 A

強い絆を作った山小屋建設！！

参加者 12 名全員を強い絆で束ねる共通体験は、何といっても、半世紀前の倉谷の山小屋建設だ。

建設の主導役であった合津リーダー（当時 4 年）が語る。

① 学校・役所との交渉

② 倉谷の廃家となる住居の材木を譲り受けるために、家主さんにお願い

③ 資金の問題。白山オープン山行で得た利益も一部投入

④ 完成後の悩みも多かった。冬の雪でつぶれないかどうか
卒業で金沢を去るにあたり、3 月に一人で山小屋の無事を確認し、安堵

⑤ …　…

『蝶よ、花よ』と大切に育てられた坊ちゃん、お嬢ちゃんたちが、この重労働の山小屋建設に、喜んで飛び込んだ。そして半世紀後の今も、その大事業を懐かしく思っている。

（この記録誌の最後に、山小屋建設作業の風景を掲載）

KUWV OBに甲子園球児がいるぞ

甲子園球場の場内アナウンス

「ピッチャー　合津」

あの憧れの甲子園球場のマウンドに向かうときは、相当の高揚感が体全体、心全体を覆うたようだ。地に足がつかなかった感じではなかろうか。

そんな大舞台で、どんなピッチングをしたのだろうか。試合には勝ったのかどうか。

さて、投げたのは高校時代ではなく、社会人で、会社を代表して試合に臨んだとのこと。（後楽園球場でも投げたらしい。）

正確に表題を付けるとすれば、甲子園球児ではなく、甲子園球爺かな。（ゴメンナサイ）

そんな貴重な体験の持ち主の名は、合津尚。

南竜ケビン　おじさん方の居酒屋談義

話題 B

8年続いた南竜PW 10回までは続けよう

この南竜 PW が決まったのは、2008 年 9 月 14 日の居酒屋談義。KUWV・OB 総会の二次会（昔のおでん屋『よしだ』の娘さんのスタンドバー）で、山村さんがこの PW を提案したのだ。そして翌年の夏に、13 名の者が南竜に集まった。

今年の南竜の居酒屋談義でも、重要事項が決定。

① この PW を第 10 回目まで必ず続ける

② 第 9 回の幹事は、伊藤俊成さん

③ 第 10 回の幹事は、山村嘉一さん

その日までは、健康を維持できるように、各位の日常の健康管理が大事。君もがんばれ、俺もがんばるぞ。

山村さんからの決意メール

（2016 年 7 月 30 日）

伊藤さん&みなさん

今年も KUWVOB 南竜集中パーワンに無事参加できまして、誠にありがとうございました。

途中危なっかしい場面もありましたが、お陰様で軽い筋肉痛で終わっています。皆様の早いお礼メールや無事帰着のメールが飛び交っているのに、小生はお礼が遅れてすみませんでした。

天候はとても恵まれた状況ではありませんでしたが、なんせ多彩（多才）なメンバーに恵まれ、この上ない楽しみを堪能させて頂きました。

会話の少ない我々夫婦なのですが、今のところ食事時の話題が絶えず、家内からうらやましがられています。しかし、身の程（歳）を考えなさいとか、荷物やビールの量についての厳しい指摘で終わるのですが。

さて、2009 年にスタートして 5 回で終わろうとしたら、9 期千葉組を代表して伊藤さんが気持ちよく引き継いで頂き、来年の 9 回目もお世話頂く予定です。

となると 10 回目はどうにも小生がやらねばならないかと・・・・・・。今のところは何とかできるかと思っているのですが、もしかしたら、ケビンの予約だけ、てなことにもなるかも……。

まぁ前向きに考えようと思いますのでよろしくです。

山村　嘉一

ケビンでの話はぽんぽんと続く

女房に『荷物とビールの量が多い』と言われても　俺はやる

2 泊 3 日の小屋泊りの山行なのだがザックの中はついつい膨らむ。

南竜の小屋で彼らに、チーズフォンデュを作って食べさせてあげようかな。喜んでくれるかな。じゃ、食材も火器も十分にパッキングしなくちゃ。

帰りの南竜道の休憩地で、オレンジを出してあげたら、みんな元気になるだろうな。今年もオレンジ詰めていこう。

懐中電灯を忘れる奴、電気切れになる奴、時々いるよな。そんな友のために、スペア持っていこうかな。

これで、大きなザックがパンパンだ。

室堂に着いて飲むビールはおいしんだよ。俺は今年も飲むぞ。みなさん、おいしいよ。飲みなよ。

こんなに優しい男性といつまでも山仲間でありたいね。

その山男の名は、山村嘉一。

「そろそろチーズフォンデュ出来たかな」

「おいしそうね。私、一番に食べよう」

このPWで、名カメラマン達によって撮られた花の写真（その一部）　**白山の花**

ミヤマリンドウ

ハクサンフウロウ

ヤマホタルブクロ

ニッコウキスゲ

アザミ

タテヤマウツボクサ

ハクサンダイゲキ

ミヤマダイコンソウ

チングルマ

クルマユリ

エゾシオガマ

ハクサンボウフウ

ヨツバシオガマ

ウサギギク

タマガワホトトギス

クロユリとハクサンイチゲ

タカネマツムシソウ

ミヤマダイモンジソウ

オヤマリンドウ

コイチヨウラン

ビデオマン？スキーマン？

第３日目　今年も楽しい南竜PWだった　無事に下山だ

この南竜道はほぼ平坦だが崩れているところもあるね。高齢者にとっては、整備してほしい道だね。気をつけて。

何はともあれ、全員ケガも病もなく、元気に別当出合に下山できた。楽しかったぜ。

いい家族に囲まれ　白山を眺める日常

息子さん家族と同居。もう一人の息子さん家族も近距離に。自宅の庭先からは、白山のピークも望める。

白山行きの前泊組は、奥様から厚いもてなしを受け、更には、おにぎり、お手製の柿の葉すし、ブドウ…等をたくさん持たせていただいた。素敵な奥様。

その柿の葉すしも、帰りの中飯場で、メンバーの最後のエネルギー源として完食。美味しい。

いい家庭環境だね。こんな日常を送る幸せな男の名は、穴田昭一。

合津先輩の安全下山宣言で　PW終了　at 別当出合

俺　お坊ちゃま！？

A 君：俺、新人トレーニングの山行に、パジャマを持参したよ。

（陰の声：坊ちゃんらしい坊ちゃん）

B 君：かわいい我が坊やを冬山に行かせるわけにはいかぬ…母親は、某大物リーダーの下宿へ直談判に。結果は、心配しながらも愛息をリーダーにゆだねることに。

（陰の声：まさか君は、坊ちゃんでなかろう。人は見かけによらないね）

彼ら坊ちゃんの名は、……

（忘れた）。

来年も来ます　よろしくお願いします

先輩の皆さんに、優しくしていただき、楽しい山行でした。何もできない口先人間の私たちですが、先輩たちと一緒なら、来年も登れるような気がします。

甘えん坊の男たちの名は、KUWV 9 期一同。

編集後記

- 貴重な写真、ありがとうございます。
  穴田さん　山村さん　篠島さん
  保田さん　黒崎さん
- 最終仕上げでの校正・ご意見等に、多大のご協力ありがとうございました。
- 白山下山後、5 泊 6 日で黒部源流の山を歩きました。上品な笑顔の 81 歳のおばあちゃんと全国の山々のトイレ改善に取り組む 77 歳のおじいちゃんに出会いました。

私たちも老けこんではいけません。見習って、山歩きを続けましょう。

（記録係：鍋島　武）

参考追補版

昭和39年（1964年）KUWV新入部員トレーニング

資料提供者
穴田（写真）鍋島（記録）

第２班　３年生　宮保洋子（リーダー）
２年生　山村嘉一　柳川徹　藤井洋治　井上義和　藤平
１年生　金田良子　服部千章　服部芳男　吉田洋次郎　上山巌　鍋島武

行程概略

５月２日（土）

金沢＝》駒帰バス停
15:05 駒帰発
18:00 倉谷

５月３日（日）

6:05 倉谷発
11:25 高三郎山頂上着
12:00 〃 発
16:00 倉谷着
テント設営・撤収、石油コンロの取扱、パッキング術の指導を受ける
18:00 キャンプファイア

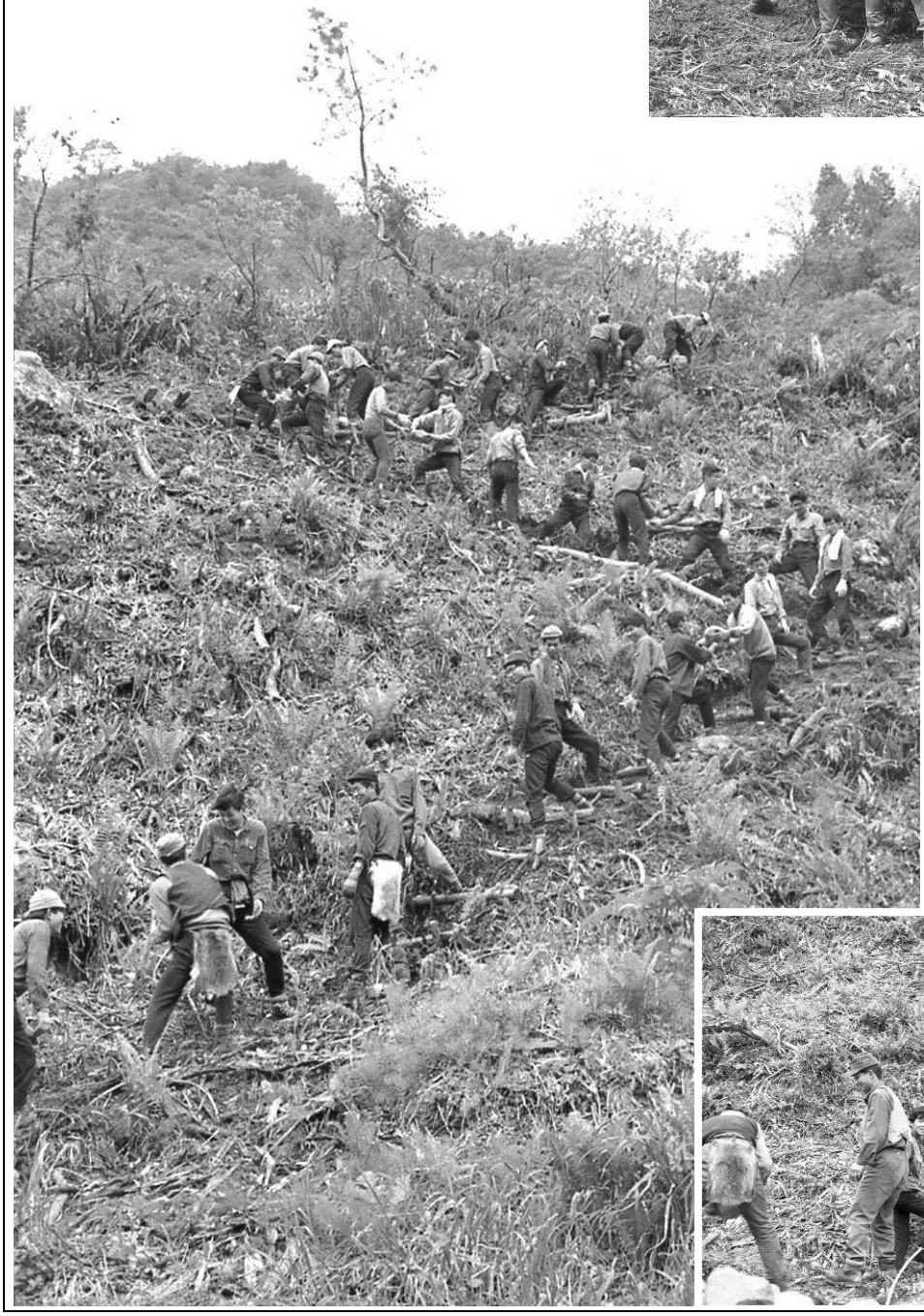
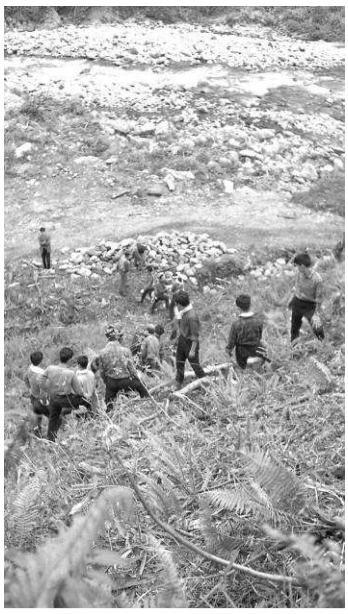
５月４日（月）

8:00～11:30
山小屋建設用地の整地
13:30～17:00
山小屋建設用石の運搬
（河原から建設用地へ）
17:30 キャンプファイア

５月５日（火）

8:00 倉谷発（第２班）
11:15 駒帰バス停着

山小屋建設用地の整地（1964.5.4）

山小屋建設用石の運搬（1964.5.4）

山小屋の基礎に使用する石を、倉谷の河原から建設用地まで、リレー方式で運び上げる